

第 1 回川西町第 8 期障害福祉計画及び第 4 期障害児福祉計画策定委員会
議事録

会 議 名 称	第 1 回川西町第 8 期障害福祉計画及び 第 4 期障害児福祉計画策定委員会
開 催 日 時	令和 8 年 9 月 7 日（月）午前 10 時 00 分～午後 0 時 00 分
開 催 場 所	川西町役場 2 階 202 会議室
出 席 委 員	渡辺委員、安達委員、山田委員、安井委員、吉村委員、 山岡委員、松村委員、松波委員、豊田委員、片岡委員、 宮地委員、吉野委員、川北委員、森田委員、橋本委員 （以上 15 名）
事 務 局	川西町福祉こども課：大野課長、福井 サーベイリサーチセンター：萬関、眞木
議 題	1. 開会 2. 委員紹介 3. 議事 （1）障害福祉計画及び障害児福祉計画の策定について （2）福祉に関するアンケート調査（素案）・関係団体ヒアリングシート （素案）について （3）その他について 4. 閉会
資 料	・川西町第 8 期障害福祉計画及び第 4 期障害児福祉計画会議資料 ・会議次第 ・委員名簿 ・座席表

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	1. 開会 ○川西町長あいさつ ○委嘱状机上配布確認 ○配布資料確認
事務局	2. 委員紹介 ○委員紹介 ○会長の選出（事務局より会長に渡辺委員を推薦）
渡辺会長	○職務代理者（吉村委員）指名
事務局	○事務局職員紹介
	3. 議事 （1）障害福祉計画及び障害児福祉計画の策定について
渡辺会長	○議事録作成・公開について説明 ○議事録署名委員（山岡委員・片岡委員）指名 それでは、議事を進めていく。議事（1）について、事務局より説明をお願いする。
事務局	○資料「川西町第8期障害福祉計画及び第4期障害児福祉計画」の策定について」に基づき説明
渡辺会長	アンケート調査については、次の議題になる。それより前の計画の位置づけについて、ご質問ご意見があればお願いします。
安達委員	そもそもの話だが、今回の計画を作るにあたり、全体のいつまでにここま で決めないといけないという全体図のうち、今回はどの部分なのか全くわ からない。今日は何をどう決めていくのか。
事務局	今回の策定委員会では、アンケートの内容についてご審議いただく。計画 に結び付けることができるより良いアンケートにする為に、ご議論いただき たいと考えている。本日のご議論を元に修正したアンケートを配布し、10月 30日までに調査を完了する。その後アンケートを集計し、次回12月予定の 2回目の策定委員会では、アンケート結果から見えた川西町の課題等を整理 したうえで、計画の素案を提示したい。その後、住民からご意見をいただく

	パブリックコメントを実施し、最後に原案を再度確認いただいたうえ、計画を完成させる流れになる。
安達委員	その計画書は、付けたほうが良いのではないか。でないと、わからない。
事務局	おっしゃる通りである。
安達委員	今日は、アンケート内容がこれで良いのかどうかを決めていくということか。
事務局	そうである。よろしくお願いします。
渡辺会長	次回以降は、スケジュールを付けていただきたい。 他にあるか。
吉野委員	次期計画を策定するにあたり、第7期障害福祉計画と第3期障害児福祉計画の3年間で見てきた成果や課題を把握しているのであれば、教えてほしい。
事務局	現行計画の評価については、3年目で途中経過になる。次回アンケート結果も含めて提示したい。
渡辺会長	重複している委員もいるが、併せて地域福祉計画を策定している。計画の進捗管理は、できる限り毎年確認する、あるいは点検・評価する仕組みが、どの計画でも必要だと思う。3年間の計画なので、1年目・2年目の数字は出ているはずである。それが枠組みとしてはほぼ踏襲されて、今後の計画ができていく。年に1回は何らかの形で進捗状況等をまとめたものが蓄積されて、それが公開できるように願います。
	(2) 福祉に関するアンケート調査(素案)・関係団体ヒアリングシート(素案)について 【当事者アンケート】
事務局	○資料「川西町福祉に関するアンケート調査(障がい当事者)」に基づき説明
渡辺会長	ご意見等はあるか。
安達委員	このアンケートは、基本指針の見直しの主なポイントのところが全て含まれているものと考えて良いか。
事務局	結構である。

安達委員	11 ページ問 38 は、「あなたは現在、通園・通学をしていますか」で「はい」の人が続けて回答するようになっている。問 40「現在の児童の通園・通学状況は、希望通りですか」で2番の「希望通りの学校・園に通えていない」を選択した時のフォローがない。これは、希望通りではないが、通えているから良いで終わってしまうのか。今後どうしたいかという設問は、必要ないのか。希望通りではないところに通っていることに対して、問題ないと考えているのか。
事務局	追加の設問項目の案を検討したい。
豊田委員	知的障がいの方の割合が少ないとはいえ、「策定」は難しい言葉なので、もう少し優しい言葉に変えることはできないか。漢字にフリガナを振っただけなので。 それと、文中に「特別支援学校」という表記が多い。奈良県では「養護学校」という表記はたくさん見るが、「特別支援学校」という看板をつけているところは見ることがない。実態に即していないと思うが、そこは工夫できないのか。今後の課題として検討願いたい。
渡辺会長	名称としては養護学校なので、実態に即して表記は変更すれば良いと思う。 確かに「策定」という言葉も難しい。表現は検討願いたい。 他いかがか。
松村委員	私は、身体の手帳所持者である。私は身体だけだが、3 ページ問 10 と問 11 は、回答する必要があるのか。例えば、7 ページ問 25 のように矢印を付けて、回答の必要があるのかないのか表記してはどうか。 8 ページ問 29 の「障害支援区分」とは何か、教えてほしい。
事務局	まず、1 点目のご質問について。重複して手帳をお持ちの方もいる。お持ちでなければ「持っていない」に丸を付けてもらえるよう、事務局案として出している。 2 点目のご質問について。障害福祉サービスを利用するにあたり、医師の診断書等に基づいて支援区分を決めていく。障害福祉サービス利用者は、区分認定されている。未利用者は、認定がない。
松村委員	その説明が先にあれば、有難い。
渡辺会長	「障害支援区分とは」という丁寧な説明があれば、なお良いと思う。
豊田委員	問 8、10、11 は、回答の順番が問題だと思う。「持っていない」が先で、「持っている」場合はその中身を選択するようにすれば、判断が早くなるの

	ではないか。身体障害者手帳も等級から入るというより、区分の名前があって何級という表記のほうが当事者にはわかりやすいのではないか。
松村委員	ここまで回答する必要があるのか、悩むことが結構ある。
渡辺会長	アンケート調査の構造的には、まず「持っている」か「持っていない」かが当然先にくる。「持っている」人は、1級なのか2級なのか。構造が複雑になるので難しいところがあるが、原則としてはそのようになると思う。
S R C	設問が増えれば増えるほど回答が減ってしまうこともあり、できれば一つの問いで聞きたいと考えている。ただ、ご意見の趣旨もよくわかる。良ければ「持っていない」を最初にして、それ以降は「持っている」方の等級を聞くのはいかがか。無回答が増えてしまうと、属性別で分析する時に省かないといけなことが生じてしまう可能性がある。
渡辺会長	基本的にこの設問は、後の設問とクロス集計をする為にあると理解して良いのか。
事務局	おっしゃる通りである。こちらで身体障害者手帳をお持ちの方、療育手帳をお持ちの方、もしくは重複の方等とわけて、それ以降の設問の、例えば外出時の困りごとや地域の生活で支援してほしいこと等について、障がい種別でどういう意見が多いか見たいと考えている。
渡辺会長	手帳所持者数自体は把握できるのでわざわざ聞く必要はないと思うが、後の分析の為に聞いていると理解してもらえれば良いと思う。 他にあるか。
安達委員	国民健康保険の時にもいろいろあったが、アンケートにしても何にしても障がいの「害」について漢字のところや平仮名のところがある。これはどういうわけ方をしているのか、教えてほしい。町としてどちらかに統一できないのか。
渡辺会長	町として平仮名にすることが基本的な方針だが、例えば身体障害者手帳は制度上の言葉なので、これは漢字を使わざるを得ない。これを平仮名にしてしまうと、違うものになってしまう。そういう使い分けだと思う。
安達委員	それだけの為に、このように2つにわかれているのか。
渡辺会長	いろいろな意見があると思うが、個人的には害の字を平仮名にすること自体ナンセンスだと思う。この考え方は賛否両論あり、一概にどちらが良い・悪いとは言えない。単に川西町の考え方が決まっているので、そうせざるを

	得ない。
安達委員	単体では平仮名だが、福祉サービスのことは既に漢字なので漢字という理解か。混乱する。
渡辺会長	これは、長年続いている議論だと思う。
山田委員	問 18 の（１）と（２）は、同じことを聞いているような気もする。最初に暮らしている場所を聞いて、その次に例えば自宅で暮らしている場合は一人なのか、家族と一緒になのかを聞いたほうが良いかもしれない。
渡辺会長	聞く順番の話である。検討願いたい。 他にあるか。 ８ページの問 28 は、障がい者の就労支援について必要なことを聞いている。選択肢 9 の「企業ニーズに合った就労訓練」は、具体的にはどういう意味合いなのか。企業ニーズとは、何のことか。企業が利益を上げる為の訓練を障がい者にさせるという意味合いと受け取れないこともない。細かな表現の話になるが。
S R C	企業にヒアリングした際に、障がいのある人を雇用するにあたりどういうことができるか、できないかを知ることができれば、もう少し雇用できるかもしれないという意見があった。
渡辺会長	説明を聞けばよくわかるが、利用者の立場にたった表現ではないように受け取れることもある。企業のニーズとは別の話かもしれないが、本人が仕事をしていく上で必要なニーズを身につける為の就労訓練であれば、利用者の立場に立った聞き方になるのではないか。噛み砕いた表現にしてもらえると有難い。 他いかがか。
山田委員	問 50、51、52 は、困りごとを先に聞いたほうが良いのではないか。その上で、次に一人で避難できるか、支援者がいるかを聞いたほうが、流れとしては答えやすいように思う。
事務局	そのように変更したい。
豊田委員	蒸し返すようだが、やはり問 40 が気になる。「その他」の回答は、どのような想定をしているのか。希望通りに通えてないのであれば、その理由ならわかる。この括弧の大きさでは、何か名称を書く程度になる。
S R C	他自治体で同様のアンケートを実施した際、割り切れないというご意見が

	あり、実情を記入する保護者が多かった。そういうご意見をくみ上げられるように、その他を設けている。
豊田委員	文章を書くのであれば、このサイズは厳しい。
事務局	サイズを調整したい。
宮地委員	問 44 で相談先の認知度を図っている。計画で周知するかもしれないが、何の相談ができるか別紙参照がつけばわかりやすいし、周知にも繋がるのではないか。
事務局	別紙を作成する。
渡辺会長	問 42 の相談相手について。「どなたに相談しますか」と人の概念で聞いているが、6、11、12 は組織や場所の選択肢になっている。問いの表現に合わせて人の概念にしたほうがきれいに揃うのではないか。あるいは、問いの文章そのものを変更する等、検討願いたい。あと、選択肢 8 に「病院のケースワーカー」とあるが、医療機関では「ソーシャルワーカー (MSW)」が使われているので、そのほうが良いのではないか。それは問 43 にも共通するので、修正願いたい。 他いかがか。
松村委員	一般向けアンケートの資料は、また後日出てくるのか。
渡辺会長	それは次の説明になる。資料はあると思う。平仮名のついていないものが一般向けアンケートになる。
	【一般向けアンケート】
事務局	○資料「川西町福祉に関するアンケート調査（一般向け）」に基づき説明
渡辺会長	一般向けアンケート調査票について、ご意見はあるか。
片岡委員	問 13 の選択肢 8 「家族の積極性」、9 「障がいのある方自身の積極性」とあるが、本人達にとってはハードルが高いのではないか。自己責任論になると感じたので、違う表現に変更してほしい。環境を作ることが社会や町の役割というのであれば、選択肢の表現は見直すべきだと思う。
渡辺会長	確かにハードルがかなり高いので、表現を変更してほしい。 他に何かあるか。

安達委員	一般向けにアンケートを取る理由が、よくわからない。基本計画を策定するにあたり、障がいのある方に対する理解は必要だが、これは予測を回答するだけだと思う。その回答を鵜呑みにして、基本計画に反映させるのか。障がいのある方に対する理解度だけを知りたいのか、計画に反映させるのか、教えてほしい。
渡辺会長	予測という言葉が適切かどうかはわからないが、一般の方々の障がいに対する意識を問うアンケート調査になる。
安達委員	それを計画に反映させるのか。当事者アンケートは、当事者が何に困っているかがわかるので、計画に反映させるのはわかる。一般の方は、当事者にとって本当に重要か必要かわからず書くと思う。それを計画に載せていくのはどうかと思う。
S R C	一般の方からの回答をそのまま計画に反映させるわけではないが、障がいのある方に対する理解度や言葉・制度の認知度が低いとなると、計画で普及していく必要があることになる。当事者ではないので予測になるとのご意見だったが、そのあたりを踏まえた分析をする為に問3を設けている。共生社会の考え方の下、障がいの有無に関わらずまちづくりを進める。当事者の意見を反映させることが一番重要だが、例えば一般就労を進めるにあたり、一般の方々の考え方もちろん反映させる必要がある。全部ではないが、一部反映させることになる。
安達委員	問4と問5は一つにして、一番下に「ない」をつけたほうが良いのではないか。
事務局	「ない」という選択肢を追加する。
森田委員	一般の方はあまり知らない、わからないことがあると思う。問29、30は「わからない」という選択肢があったほうが良いのではないか。
渡辺会長	「わからない」という選択肢を追記願いたい。 他いかがか。 5ページ問16の選択肢5「社会福祉施設に対する援助」は、具体的に何をイメージしているのか。施設の中に入って何かボランティアをするということか。
S R C	事業所に対する支援ということで幅広く。
渡辺会長	例えば、寄付する等も入るイメージか。 7ページ問23の設問の文章は「～どのように入手していますか。」だが、

	選択肢は媒体になる。「どのように」という時の選択肢は、方法が入るはずである。この選択肢のままであれば、設問は「どこから」等の表現になるのではないか。そのあたりの整合性を図って、修正願いたい。 当事者アンケートと選択肢が共通しているものもあるので、先ほど当事者アンケートでご指摘いただいたものと同様のものがあれば、同じく修正願いたい。
橋本委員	7 ページは「5 障がいのある児童の教育について」とあり、問 22 の設問では「～障がいのある児童・生徒が」と聞いている。「5 障がいのある児童・生徒の教育について」としたほうが良いのではないか。障害児計画そのものは、18 歳未満を対象としている。「児童の教育」とすると、小学生だけと捉えられてしまう。
事務局	変更したい。
渡辺会長	大きなタイトルの表現を変えるということか。
橋本委員	そうである。
豊田委員	8 ページ「7 障がい者の権利擁護について」の中で、「合理的配慮」について知っているかを聞く意図は何か。
S R C	「合理的配慮」の認知度が低いことから、言葉だけ知っている方、内容まで知っている方、全く知らない方の割合を出したいと考えている。
豊田委員	※で事例としてあがっているところに違和感がある。自分とは関係ない気持ちが高まっていく。もう少し身近な例はないか。障がい者の虐待を知っているかどうかは、問わないのか。
S R C	知っているか知っていないかだと、恐らく知っている方が多くなってしまう。どういう虐待かとなると、聞き方が難しい。
豊田委員	相談支援では、権利擁護が出てくると障がい児者の虐待から入り、並行して本人達的意思決定支援が出てきて、合理的配慮はその後からついてくる。ポンと合理的配慮が出てきたので、その手前である虐待はもう終わったのかという印象があった。もう少しわかりやすい例を入れたほうが良いと思う。
渡辺会長	わかりやすい例は、何かあるか。
豊田委員	「事業所において」と書かれてしまうと、一般の方へ身近な場所での合理的配慮の知識や経験を問いたいだろうと思ったが、この例だと自分とは関係

	ないという印象がある。
S R C	店舗や公共交通機関等での事例にしたほうが良いか。
渡辺会長	事例はそのほうが良い。修正願いたい。 他いかがか。
山田委員	問 27 は「とても関心がある」「ある程度関心がある」方だけ次の設問に続いている。気持ちとしては、「まったく関心がない」「あまり関心がない」理由が気になる。そういう人達に施策をどう啓発していくか、計画に盛り込んでほしい。関心のある人だけに絞ると、その情報が欠けるのではないか。問 28 は関心のある人向けの内容になっているが、問 29 以降は関心のない人にも回答してもらってはどうか。文言等も検討願いたい。
渡辺会長	問 29 以降は、関心ある・なしに関係なく、すべての方に質問している。
S R C	問 29 以降は皆さんに聞いているので、「皆さんにお聞きします」と入れてわかりやすくしたい。
渡辺会長	わかりやすく表記してほしい。プラス、関心がない理由を聞けば良いか。
豊田委員	ある人よりも、ない人の理由が知りたい。
渡辺会長	関心がない場合の理由を選択肢でどこまで作れるかがあると思う。自由回答にする等、過去に設問の例はあるか。
S R C	例はある。ある人の理由は、障がい福祉に関心を持った成功例になる。その経緯を把握したい。ご意見のように、関心がない人の理由も聞くことができれば、どちらも確認できると思う。
渡辺会長	入れる方向で検討していただくということで良いか。
豊田委員	結構である。
宮地委員	一般向けのアンケートには、6 ページに「アンケートはあと残り半分です」と終了の目安がある。当事者アンケートにはなかったのが、あったほうが回答しやすいのではないか。
	【関係団体ヒアリング】
事務局	○資料「川西町第 8 期障害福祉計画及び第 4 期障害児福祉計画策定のための

	関係団体ヒアリングシート」に基づき説明
渡辺会長	これは、聞き取らないのであれば「ヒアリング」という言葉を使うことに疑問があるが。
S R C	ファックスで返信いただくが、場合によっては不明な点があれば直接聞かせていただく。
片岡委員	当事者団体は、家族会も含むのか。
事務局	予定しているのは、町内の障がい福祉サービスと身体通所支援事業所、町が委託している相談支援事業所の合計 11 団体になる。
片岡委員	家族会は含まないのか。そちらの方の意見は大事だと思う。
事務局	想定に入れていなくて、申し訳ない。追加したい。
渡辺会長	当事者団体の概念に、家族会は当然入る。そういう意味では、入れてもらいたい。 他にあるか。 当事者、一般、関係団体向けそれぞれの調査票について、ご議論いただいた。10 月に実施して結果が提示されるのは 12 月の委員会になる。それまでにこの会議があるわけではないので、修正点はどういう扱いにするか。事務局で何か想定しているのか。
事務局	日程的にタイトなので、会長と職務代理者に代表でご確認いただき、アンケートを実施したい。
渡辺会長	そういう方向でご了解いただけるか。
委員一同	(異議なし)
渡辺会長	もし何かお気づきの点等があれば、事務局に申し入れていただくタイムリミットは何日か。
事務局	今週中にいただけると有難い。
渡辺会長	では、金曜日の 16 時くらいまでをお願いしたい。
山田委員	アンケートに URL と QR コードがあるが、さらに最近は ID を入れるようになっていくのか。

S R C	紙回答とWEB回答で重複回答する方がたまにいらっしゃる為、それをなくす為にIDで確認させていただく。個人情報とは紐づいていない。
山田委員	このIDは、全部違うのか。
S R C	一人ひとり違うものになる。
渡辺会長	英数字織り交ぜて6桁みたいなものか。
S R C	そういうものか、もしくは数字のみか調整したい。
安達委員	過去のアンケートの回答率は、どれくらいになるのか。
事務局	前は障がい当事者の方500人対象で回答率が53.6%、一般向けは1,000人対象で51.1%の回収率になる。団体は催促もして100%である。
安達委員	それは、多いほうなのか。
渡辺会長	こういう郵送調査にしては、多い。
S R C	障がいのある方に関しては、良いほうである。一般の方向けはだいたい30～40で、50いくと良いほうなので、51%はかなり高い。
	(3) その他について
事務局	○今後の予定について説明
渡辺会長	ご質問、ご意見はあるか。
吉村委員	先ほどの回答率が気になる。当事者が約半分の回答率だが、残りの方はどういう思いでいるのか。自分達には関係ない、どうしても良いと思っているのか、それとも要望が全くないのか。そのあたりを確認できる方法はないのか。
渡辺会長	回収率をあげていろいろな意見を反映させる努力は、当然必要になる。何かその手立ては考えられているのか。例えば素人の発想だが、関係団体や事業所で当事者と日頃から関わっている方にお願ひする、自立支援協議会を通じて周知してもらう等は可能か。
片岡委員	磯城郡なので、町単位となると難しい。
吉野委員	学校でもこのようなアンケートを実施するが、皆さん口を揃えて言われる

	のは「生まれてから今まで同じことばかり聞かれる」ということである。「またか」と。そうであったとしても、何か変化・改善があるのであれば喜んで回答したいが、結局変わっていないという声をよく聞く。
渡辺会長	毎回ルーティンで行う必要があるかもしれないが、できるだけ進捗状況を何らかの形で届けながら進めてほしい。数字で1から2、2から3になったのではなく、こうなつたと文字面で表現できる方法を踏まえる必要がある。そういうふうに反映してもらえるのであれば、回答しようと思える循環になるような仕組みづくりが必要ではないか。計画を3年に1度のお祭りのように作成するのではなく、できるだけ毎年の積み上げで成果を町民に広げていく必要がある。他の計画も含めて、行政としてそういう方向で取り組んでほしい。
安井委員	障がい種別にもよるが、本人が自立したいと思っているかどうかの設問があっても良いのではないかな。重度の方でも自立したいと思っているかもしれない。
渡辺会長	他市町村の障害福祉計画の議論でも、例えば障がい児の事業所が下請けで製品を作るだけでは先行きが不安なので、オリジナルの自社製品を開発する方向で考えている事業所も多いと思う。安井委員のご意見も、一つの自立に向けた取組だと思う。どのようにアンケート調査に反映できるかわからないが、当事者向けは前向きな意思を確認する設問が必要かもしれない。 他にあるか。
豊田委員	関連して。当事者アンケートの問19は、今後3年以内について聞いている。その下に、例えば期限を切らずに「将来的にあなたはどのような暮らしがしたいですか」という問いを追加できないか。
渡辺会長	良いご提案をいただいた。修正を検討願いたい。 それでは、以上で議事は終了する。 4. 閉会

上記のとおり確認致しました。

令和8年10月7日

議事録署名委員 山岡 高美子

議事録署名委員 片岡 克矢